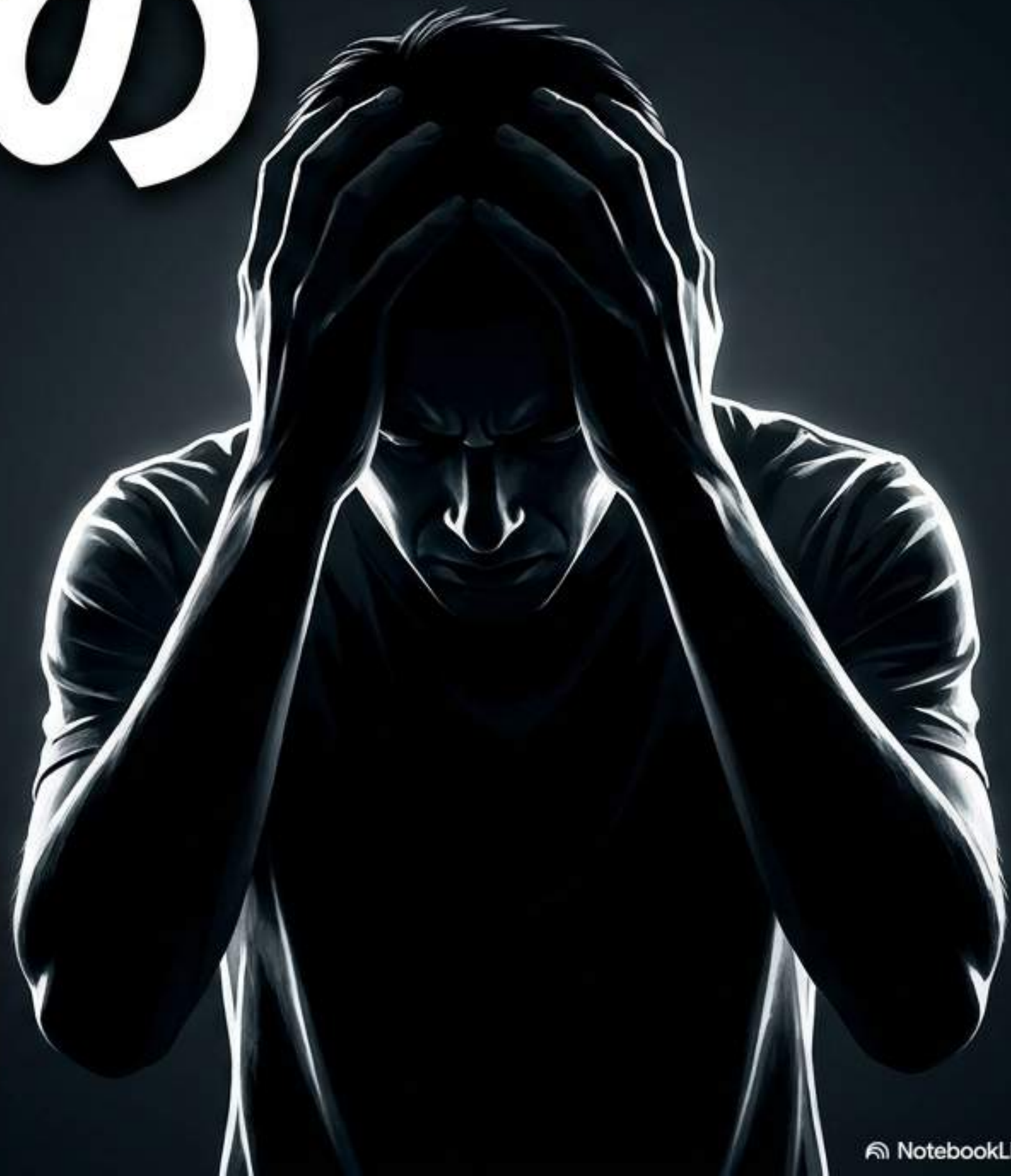


死者の声の 「捏造」

沖縄タイムス
虚偽報道の闇





“

「天国から二人の
声が聞こえて来る。
『誹謗中傷に負けず、
抗議行動を続けて
ほしい』と。」

”

【悲劇の利用】

— 沖縄タイムス 読者投稿より



メディアの「物語」 政治利用

辺野古の「抗議活動」
のために乗船

反対運動を
支える活動家



ご遺族の「真実」 noteでの告白

「お友達と綺麗な珊瑚礁を
見る方が楽しそうじゃん」

基地反対運動には
一切関与していない

奪われた尊厳と、真の姿

- ✓ 学業：哲学と天文で成績優秀
- ✓ 挑戦：ハーバード大学サマースクール参加
- ✓ 語学：英語に加え、韓国語も自力で習得

彼女は「左翼の活動家」ではない。
将来有望な、聡明な女子高生だった。



「一般読者」の異常な正体



一般の読者 — 1~10回/年

渡真利善朋氏 — 年間45回掲載

第1位 / 総投稿2379本中

週に約1回のペース

これは「読者の声」ではなく、
事実上の「お抱え執筆者」による代弁である。

隠蔽のループ：著作権の兵器化

【虚偽掲載】
沖縄タイムスが
嘘の読者投稿を掲載

【証拠隠滅】
「著作権侵害」を盾に
スクショを削除申請

【事実発覚】
ご遺族のnoteにより
SNSで嘘が露呈

倫理の欠如

【批判殺到】
不都合な紙面スクショが拡散

責任の境界線



被害者は抗議活動をしていた？

いいえ。現場には一切関与していません。



投稿者は単なる一般人？

はい。しかし、年間45回掲載の「常連」であり、新聞社の掲載責任が問われます。



スクショ削除は正当？

法的には。しかし倫理的には「不都合な真実の隠蔽工作」として機能しています。



二重の悲劇

第一の悲劇：大人たちに騙され、
理不尽に奪われた命。

第二の悲劇：政治的アジェンダ
のため、死者の声を「捏造」した
メディア。

沖縄タイムスから、具体的な再発防止策は未だ発表されていない。